

り。然やどぶ羽柴秀吉の候のうちにて糧運續の準備をすこし
め。暁まで十一月との二日。即ちの夜より雪降り。駒小秀吉隊と營。今
にも殿と慕ふ態を顯す。別少一方の兵士小倉じ。小幡左衛門進元
清が駕ちる。岩倉の城と。南條治蕃も先陣。居城を。羽林の義
へ乞糧を納させ。毛利家枝塞の兵士まへ。眼前これを視るとつども。
秀吉の大軍猛威を振ひ。今にも進る神さうれば。これふ怖きて殺
せば。這圍をゆくと思の随ふ。乞糧あり。運納たり。秀吉今氣
頗る。先隊の備勢を退収と。捨擲ふ隨ひ前隊。次第に兵士を操
收。右門の陣ふへ被あう。金銀玉等と賞勅。當夜の主に
り廻り。右門の曉去を待盡。御天をくみよ。羽柴の備
勢次第をうつく。隊伍を操作する。行視て。毛利と將軍奉を握り。
午色の頃までも。役くに待されども。故に更不敵く。兵糧をそそ
て。義城へ。おのれの主に連絡す。其事を倣果せられ。暮び退陣。一
日も。右門勢は案に想遠し。又毛ハ乞糧を納ん。あ小攻下の神等
ひらき。斯からくと取まつて。毛利。縄懐され。罵れども。今更止む
す。只徒空に歌陣を。睨むて。在たうる。活うる程に秀
吉ハ羽衣石の鼻小波つて。先隊の勢を退収せ。退陣せんとあう
る。血氣の勇士。猶本意を失ひ。ひるぬかして。戦も。勝利十数ある
もの。かう。軍を退まし。毛利と罵る。ゆうなるほど。秀吉勝る。自
身を制して。前立へ。告て曰く。歌ひ。せふ。自方の事。傍く。自方の他
の事。得く。此山より。廻る。勝利の必定。あり。歎く。れど。自方も大半損
亡。毛利。右門勢は寡少。れども。人の和を得く。死不畏の意す。勝て